

## 審 議 結 果

会 議 名	第4回川口市協働推進委員会
開 催 日 時	平成29年1月24日（火） 10時00分から11時30分
開 催 場 所	川口市議会 第3委員会室
出 席 者	<p>邊田委員長、高橋副委員長</p> <p>上田委員、江口委員、清水委員、林委員、関根委員、足立委員 森委員、前原委員、石橋委員、武井委員、矢野委員</p> <p>川口市協働推進委員会規則第4条の規定に基づき出席を求めた者： 盛人大学実行委員会 仲川実行委員長</p> <p>沢田市民生活部長、渡部課長、買田課長補佐、平石主査、菅原主査 吉川主査</p>
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）審議事項</p> <p>ア 盛人大学学旨の改正について</p> <p>（2）報告事項</p> <p>ア 町会・自治会との協働事業について</p> <p>（3）その他</p> <p>3 閉会</p>
公開／非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	2名
会 議 資 料	会議次第

	資料No.1 盛人大学と市民大学の比較 資料No.2 町会・自治会との協働事業について 盛人大学平成27年度卒業生アンケート及び集計結果
審 議 経 過	別紙のとおり
そ の 他	—

## 審 議 経 過

### 1 開会（10時00分）

- ・ 事務局から出席委員数が委員定数の過半数に達しているため、川口市協働推進委員会規則第3条第2項の規定により本委員会が成立している旨を報告した。
- ・ 会議の傍聴希望者が2名いることから、事務局から報告のうえ入室を許可した。
- ・ 事務局から配布資料及び追加資料（机上配布）について説明した。
- ・ 委員長が会議録署名人を選任した。

### 2 議事

#### (1) 審議事項について

##### ア 盛人大学学旨の改正について

###### ○委員長

審議事項のア盛人大学の学旨の改正について、前回の委員会で決定したとおり、川口市協働推進委員会規則第4条の規定に基づき、盛人大学実行委員会実行委員長にご出席いただいている。

まず、前回の委員会で委員から請求のあった盛人大学と市民大学との比較の資料が提出されているので、事務局の説明を求める。

###### ○事務局

資料は、前回の委員会でご依頼のあった盛人大学と市民大学の事業内容等の比較表である。盛人大学と市民大学の特徴的な相違点について説明する。運営組織についてだが、市民大学は市直営、盛人大学は実行委員会形式で、事務局もNPO法人と市の協働事業となっている。実施目的は、盛人大学が自主的に社会貢献活動を行う人を育成することに対し、市民大学は、市民の学習欲求に応え、生きがいつくりや自己実現を達成することとなっている。学旨につ

いては市民大学では設定されていない。募集対象だが、盛人大学は盛人世代である50歳以上、市民大学は18歳以上となっている。各大学の講座数及び内容は資料に記載のとおりであり、受講料及び材料費等については、受講料は盛人大学が4,500円から6,500円の3段階、市民大学は公開講座を除き無料、材料費は両大学とも講座によって徴収している。受講者の卒業要件については、盛人大学では8割以上の出席と600から800字のレポート提出としており、要件に該当する卒業生には卒業証書を授与している。一方、市民大学では独自の単位制度を設けており、講座の回数が3回以下の講座や公開講座については単位の認定はないが、各講座において4分の3以上の出席をもって、原則、1講座を1単位と認定し、5単位で学士、10単位で修士、15単位で博士に認定、修了証書を発行している。

続いて、本日机上配布の資料について説明する。

先ほど、盛人大学は自主的に社会貢献活動を行う人を育成する場であると申し上げたが、この資料は、昨年度の盛人大学卒業生を対象に実施した社会貢献活動への参加状況に関するアンケートの調査票と集計結果である。卒業生266名のうち回答数は174人。このうち卒業から10ヵ月以内に社会貢献活動を行っている方は62.1%となっている。

#### ○委員長

ただいまの説明について、意見、質問はあるか。

(「なし」との声あり)

#### ○委員長

では、意見交換に移る。改めて盛人大学実行委員会実行委員長を紹介する。本日は公私ともご多忙の中にも関わらずご出席いただき委員会を代表して感謝申し上げます。実行委員長は、盛人大学の創設にも携われ、現在は、盛人大学のカリキュラムの企画・運営を行っている実行委員会の実行委員長を務めている。本日は、盛人大学の目的、事業の立ち上げから現在に至るまでの経緯について説明いただき、その後、委員との意見交換、質疑応答とさせていただきがいがい。

(「異議なし」との声あり)

## ○委員長

では、盛人大学実行委員会実行委員長に、盛人大学の概要について説明をお願いします。

## ○関係者

本日川口市協働推進委員会にお招きいただき発言の機会をいただいたこと大変光栄に思い、ありがたく思う。

まず、盛人大学がなぜできたかというところからお話をさせていただく。まず盛人大学の前に盛人式、盛んなる人の式、20歳ではなく50歳の盛人式、50歳の人たちを盛人と呼ぼうということ。その背景には、当時、20歳の成人式、現在も多少はその傾向がみられるが、大変荒れていた時代である。その時代に、ちょうど20歳の子の親が50歳前後であった。50歳というのが、60歳は還暦があるが、特に行事がないということで、盛人式を行おうという機運が高まり、私はその第3回目の実行委員長をさせていただいた。盛人式は、子ども達に大人の姿を見せて成人式というものの意義を考えてもらいたい、親が子どもに自分達の姿を見せようということで、まず始まった。第3回実行委員長として実行委員会を組織し、当時約100名のスタッフが集まった。そして、盛人式が終わった後に、これだけスタッフが集まっているんな事業を行い、充実した時間を過ごしたなかで、何か継続してやっていきたいという意見が、自然に多くのメンバーから出てきた。そこで私と当時の行政の方と話をし、私が提案をして盛人大学をやしましょうという形になった。

盛人大学というのは前例ももちろんないし、右に倣うものが何もないということで、自分達自らどうしたらよいだろうかと試行錯誤し、検討をした。やるのであればスタッフはたくさんいるので、市民が自らの手で企画をし、自分達自らが講師になり、勉強の場を設けていこう。ただ勉強するだけではどこにでもある市民大学と変わらないので、それでは意味がない。自分達は何ができるのか、そのところでいろんなことを考え、自分達は年齢的に50歳以上の人たちが集まっているので、それでは社会貢献をすることを考えていこうと。社会貢献とはどんなものなのか、何をやっていいかわからないというのが多くの人たちの意見。それであれば、我々が企画するものに対して来ていただいた方に、そのきっかけ作りをする

というのはどうだろうという話でまとまった。この学びの中から自ら率先して組織、NPOやサークルを作る、いろんな活動をするきっかけを作っていこうと。そのため、私達がサークルを作ってください、こういうサークルができます、ということは一切言っていない。自ら学んだものに対して、社会貢献をやっていきたい、やっていこうということで始まっている。第1回は私達は何をやっていいかわからない、意見が錯綜していたので、私が実行委員長という立場で、テーマを決め、第1回は環境をテーマにした。環境をキーワードにして、皆さんにそれを伝えられるかということで、自分達自ら講師になる。そして受講生に対してレクチャーをさせていただく。自分達でいろんなところに行って勉強をさせていただき、学び、そして皆様にお伝えをしたというのが第1回。これが盛人大学のスタートである。

その後、いろいろなことを経験しながら第2回、第3回と継続をしていくわけだが、第1回目では本当に試行錯誤だったので、メンバーも受講された方の追跡もできなかった。スタッフの方は分かっているけども、受講した方たちのフォローができなかったということが、第1回の大きな反省点である。そこで、第2回では、2つのグループに大きく分け、学校の教室と同じように、そこに担任をつけ、その担任が責任を持つことにした。2つのクラスに対して担任をつけ、そしてフォローしていく。その中でコミュニケーション、大人ですからコミュニケーションといっても、もちろんノコミュニケーションもあったと思う、いろいろな中で交流が深まり、春になるとお花見に行きたいねということで西口の公園で桜を見たり、コミュニケーションは大変深まった。その第2回の方々が残って、第3回のスタッフとして運営をする。現在の盛人大学には9つクラスがあるが、全てのコースにボランティアとして運営に携わっていただく。これは毎年人は替わっている。もちろん、調整をしていただく方が必要なので、リーダーは何人か残っていただき、全くつながっていないということはない。何人かが残った中で、実際の運営、どういう講師で、どういう中身にということを組み立てていく。そういう意味でも、社会貢献の知的欲求に対するボランティアというのは続いている。

川口はボランティア日本一を標榜しているので、自分達でボランティアを、団体やサーク

ル、個人で、できることをしてもらおう。学びだけではなくて、その後でどういうことをやっていくのかということも議論しているのが、盛人大学である。ここが、他にない、日本の中でも少ない考えの下に作られた市民大学だと思う。市民大学という言葉を使ったが、我々は行政が行う市民大学とは全く意味の違う市民自らの大学と言う形で、ある意味自負もしている。そういう意味で一生懸命、運営、ボランティアとして取り組んでいる。最近では、盛人 Happy Life フェアというものを開催している。これも自然発生したものである。今年で第3回目になる。爺婆と孫のファッションショーや、年齢的に60を超えると、そろそろ老後のことを考えないといけない、自分のエンディングのことも考えないといけない、そういうフェアを開催している団体もある。大変多くの卒業生が、行政に関わったり、地域に根付いた運動をしている。盛人大学は2000名を超えるメンバーが卒業している。そういう方達が、我々の考えに基づいて、趣旨を理解して、何らかのボランティア活動を地域でされていると思っている。ぜひそういうことを考えながら盛人大学の学旨の改正については、どういう方向に持っていったらいいかということも議論していただいて、より川口に根付いた形で、盛人大学がますます多くの人たちに支持されるようにしていただきたいと願ってやまない。

本当にこういう機会をいただき、大変感謝している。

#### ○委員長

それでは、これから意見交換に移る。意見、質問のある委員は挙手を願う。

#### ○委員

私は地域デザイン入門コースのスタッフをしているが、今の話のように、流れを細かく聞いたのは始めてで新鮮な感もあった。私は、西川口にキャンパスが出来たときから参加しているので、出来たときに経緯はあまり承知していないのだが、市民が手作りで作ってやっている、応分の対価を払っていただいて運営するという今のやり方については、多分、他の地区ではないだろうと思う。

それから、貢献活動をどれだけしているかというアンケートも、想定以上に皆さんがやっ

ているんだと感じた。

地域デザイン入門では川口のまちづくりということを目指しての勉強、具体的なテーマを設け、卒業された方が地区に帰り、何らかの活動している。ひとつ紹介したいのだが、2年前に地域デザイン入門を卒業したメンバーが川口のカルタを作っている。約2年間かけて読み札を、川口のカルタにふさわしい内容、人やもの、文化を勉強している。川口に住んでいるが、初めて聞いたという方もいる。私も川口に来て20年になるが、ほとんど知らない。2年かけて読み札を作り、裏づけもとって了解もいただき去年の夏に小中学校にお願いして、読み札に対する絵を募集した。全部で820ぐらいの応募があった。年末に専門家も含め選考会をした。2月か3月ぐらいにもものづくりをする予定だが、ものづくりよりもどうやって広めるかが会の活動だけでも、すごいなって感じた。盛人大学で手法を学び、よく調査し、相手のことを聞きながら物事を進めていくということを地域デザイン入門では行っているのだけど、それが見事に体言化されたものでもあるので紹介がてら述べさせていただいた。

#### ○委員

実行委員長に聞きたいのだが、現在の盛人大学は、川口市長が学長、そして、協働推進課が事務局を担当して実施されている。先ほどの実行委員長のお話からすると、実際には市民の立場で皆が集まって、50歳代で、こういう趣旨の大学を作ろうということだったそうだが、それが行政と結びつきができたのはどういう経緯からか。今回の盛人大学の学旨の改正については、大学側の川口市民の方から始まったのか、行政の方から始まったのか、どういう経緯で提議されたのか。

#### ○関係者

まず、どういう経緯で行政との関わりが深くなってきたのかということだが、最初はキューポ・ラの会議室で第1回と2回を実施させていただいて、第3回は旧並木公民館にキャンパスとして設置されるということになり、本格的に行政の支援をいただいたというのが経緯である。その前までは、基本的には、私達の手で、ほとんどボランティアでやっており、もちろん、最低限の資料代としてお金をいただくということはしていたが、足りないところは、



実行委員会のメンバーと私で、身銭を切ってもやっていこうと。

その中で西川口活性化として、西口にはパスポートセンターを持つてくるということになったが、東口には何もなかった。そこで当時の市長に、私は地域の商店街の役員もやらせていただいたのだが、東口にはこういう活動をしているものを誘致できないだろうかということをご相談差し上げて、いいことだという返事をいただいた。盛人大学はぼっと来たのではなく、地域の商店街が動いて誘致をしたということが経緯。それで行政から場所の提供、人も提供し、お金もサポートしていただいた。自分達がスタートした段階では考えられないような状況に成長して、それが現在につながったということである。

学旨については、募集要項が改正されて、実行委員会のほかに、盛人大学運営委員会という組織ができた。その時に、パンフレットを充実するというので、募集するにあたって、大学という名前を使っている以上、当時担当されていた早稲田大学の教授から学旨を作ったほうがいいのかという意見があった。我々には学旨をつくるだけの能力もないので、教授にベースを考案していただいて、それに対して意見を述べるという程度ぐらいのもので学旨ができた。私としては、現在の学旨は実際の大学の運営に対して的を射ていると認識しているが、時代の変化とともに変えていかなければいけないものがあるのであれば、社会情勢の変化、地域との関わりというものがどのように変わってくるかによって、多少は変わってくるのかなという気がしている。我々が理解できる内容の変化であれば、問題はないと考えている。この内容について誰がということになると、我々実行委員会サイドから変更したいという意見は皆無である。

#### ○委員

学旨変更がどうして起こったのかということが分からないので質問させていただいたのだが、大学側というか実際の活動者のほうからは学旨の変更の意思というものはないということだが、ということはこれはいったいどこから起こったのか。

#### ○事務局

前回の第3回委員会の諮問書があるが、そちらに書いてあるとおりである。読み上げさせ

ていただく。

諮問の理由のとおり、現在の盛人大学の学旨は「人、地域、社会がともに成長する」です。盛人大学は、主に50歳以上の方々の交流と地域参加の機会を提供することを目的として平成18年度に開校し、10年以上が経過しています。この間、本市では川口市協働推進条例を制定し、協働を推進するための基本理念及び原則等を定めました。さらに、平成28年4月には第5次川口市総合計画を策定し、本市の将来都市像を「人としごとが輝くしなやかでたくましい都市川口」と設定するなど、盛人大学を取り巻く状況が変化しています。また、平成28年度川口市行政評価外部評価結果において、「協働推進を意識した趣旨・目的の明確化」を求められたところでもあります。そこで、これらを踏まえ、盛人大学が今後とも、「市民が市民として幸せに暮らせる地域社会を実現するために協働する担い手の育成の場」であることを表す学旨について諮問するものです。とあるように、盛人大学が10年を経過し、社会情勢をとりまく環境が変わってきていることから、学長として変更するというもので諮問しているものである。

#### ○委員

どのように変わっているのか。生活が。抽象的で分からない。そもそも盛人大学は非常に先進的なものとして行われていた。それは、今でも変わっているとは思えない。行政はどのように考えているのか。条例が変わっているのは分かる、また、学旨が抽象的なのは分かるが、学旨を変えるほど実態が変わっているものとは思えない。

#### ○事務局

諮問書のとおりであるが、1つ目は、協働推進条例を制定し盛人大学も条例に基づく事業となったこと。2つ目は、第5次川口市総合計画基本計画において初めて盛人大学が盛り込まれたこと。3つ目は外部評価委員会において、市民大学は知的好奇心を満たすものであるが、それとの差を明確にするよう求められたことである。盛人大学は50歳以上の方が、これまで培った知識や経験、技能を活かして川口市のまちづくり、ひいては日本のまちづくりを、社会貢献活動ができる人を育てるという理念がある。それが抽象的と意見もあるが、市

民に分かりやすくする必要が生じたことが環境の変化となっている。

#### ○委員

それは行政からの要望ですよ。一般の大学というものは自治というものを尊重し、行政はあくまでも手助けをするというのが建前の関係がある。大学と言う言葉で言っているのかわからないが。先ほど実行委員長に学旨を変える必要があるかを聞いたところ、そこまでおっしゃいませんでしたが、考えているという話であった。これについて、行政の一部に入っていることから、提言しているということの理解でよろしいか。それとも、絶対にここだけは頭に入れて検討してくださいという何かがあるのか。

#### ○事務局

学旨の改正にあたっては、盛人大学運営委員会と実行委員会には説明、報告し、了承を得ている。諮問は、現在の学旨のあり方を含めて答申していただくこととなるため、事務局から改正案を提示することはない。先ほど申したとおり、抽象的で分かりにくいということもあるが、事務局としては、知的好奇心を満たすだけではなく社会貢献活動に参加してもらえそうな学旨にしていきたいと考えている。

#### ○委員

盛人大学の内容については、実行委員長から素晴らしいご説明をいただいた。前回、事務局から聞いた内容より分かりやすかったと思う。前回聞いた内容と、実行委員長から聞いた内容と頭の中が混乱するところがある。前回の委員会では、自治会や町会とリンクしづらい、そちらに卒業後に行かないのではないかとかという意見が出てたと思う。でも、もともと根本のものが違っていたのか。実行委員会としては、どういった方向性で、目的が今までどおりであれば、強く学旨を変えなくても、補足で、例えば、どう変わってますみたいなものでいいんじゃないかと思う。よくできた学旨なので、楽しいから2回も3回も通ってもボランティア活動しないよという人はどうなのか、方向性を聞きたい。

#### ○関係者

事務局の説明と違うというのは想像ができるが、実行委員会として向かっていきたい方向

というのは、私が先ほど述べたとおりである。

何回も来られる方、リピーターに対する考えだが、私はいろんな団体に所属をさせていただいて、いろんな活動をしてきた。地域で言えば、私は26歳で町会の衛生部長をした。町会活動の経験もある。そして、後に青年会議所にも入り理事長職もした。現在は、川口ロータリークラブの会員として活動させていただき、本年度は幹事をさせていただいている。その他に数えれば、名刺の裏に主だったものを書かせていただいているが、手の指では足りないほどの活動をしている。ある人に、お前は仕事をどうやっているのかと聞かれたことがある。ボランティア活動の合間に仕事をしていますと言わせていただいているほど、ボランティア活動を一生懸命やっている。自分の経験、それが全てではないかもしれないが、リピーターだから排除するという考えは、私としてはあまりやってほしくない。なぜならば、何回も来ることでいろんなことを経験できる。そして自分の合ったボランティアを見つけてもらえるチャンスがあるのではないか。最初に来たコースだけで、そのコースのボランティア活動をやりなさい。自分に合っていなかったらやらない。合っていればやる。でも、2回目に来たコース、違うコースに来たら自分の感性とあっている、こういうことをやりたかったんだということが見つければ素晴らしいこと。2回目3回目のチャンスを潰すことは私としては本意ではない。10回来て、その中で自分がやりたいことを真剣に学んで行動した方が、地域社会にとって必要とされるチャンスを沢山与えられているということで、意義があるだろうと考えている。

委員の皆さんには、ぜひ、盛人大学を一度ご覧いただければ大変ありがたい。会社をリタイアした方、主婦の方、いろんな方がいる。もちろん意見が違う方もいる。やっていく中でそうだったんだねと気が付いてくれる方もいる。私は、来る方は極力参加していただきたいと常々思っている。しかし、行政という立場で財政的な援助していただいているということもあって、何度も同じ人に機会を与えるよりも、沢山の人たちに機会を与えたいということも理解しているので、事務局に対して今言ったような意見を述べたことはない。これは、税金を平等に使うという意味で、行政の立場も理解できるからである。ただ、個人的には何度

も何度もチャレンジして、何度も何度もやったうえで自分にあったものを見つけ出してほしいと思っている。

○委員

理解できた。

○委員

趣旨や経緯を分かりやすく説明いただき感謝する。学旨には、人、地域、社会が共に成長するとある。そうすると、個人のために何かをやっていると聞こえる。市民大学と方向性が同じになるのではないかと思う。話を伺うと、盛人大学は地域、社会に貢献する人を育てる。ですから、そこで、そういうところが織り込められればいいのではないかと思う。例えば地域社会に貢献する人を育てるとか、地域社会に貢献し成長する人を育てるとか、そんなようなニュアンスではないかと思う。

○委員長

確かに、より具体的に、参加する人に分かりやすくという行政側の趣旨は分かる。私も町会長をしているが、手伝ってくれる人がいないのが現状であるし、行政に振り回されているという言い方をすると語弊があるが、仕事がきてもスタッフがいない中で動いているのが現状だと思う。知識を持って地域に来てくれる人がいればありがたいことなので、学旨については、その辺を踏まえてもう少し分かりやすく、そのようなニュアンスにできれば、盛人大学に参加する人が増えて、自分の知識をより深めて地域に貢献してくれるのかなと考える。足かせをするために変えるのではない。気持ちよくやってほしい、お願いしますでやるのではなく、自分はできるからやってみようということで、地域や町会に貢献するというのが、ありがたい。

○委員

社会貢献活動をする人を増やしたいということ、実行委員長も行政もどちらも思いは同じ。では、現状どうなのか。盛人大学は、熱心な人は集まるけども、そもそも知らない市民が大半だと思う。でも、知らないけどやりたい人はたくさんいる、60万人もいるわけですから。

そこにアピールしやすいような言葉にしたいということかと思うのだが、どうなのか。実際に盛人大学は実態としてどうなのか。

#### ○関係者

300名の定員に対し、コースによって違うが、倍率は最終的には1点何倍。少ないところでは定員を割っているところはある、地域活動に対してアカデミックに捉えているコースは倍率が低い。分かりやすいコース、例えば社会教養コースは、地域を学びたいという応募が多く、最初の頃はリピーターも多く、5倍の倍率があり入りたくても入れなかった。川口に住んでいても川口を知らない、だから川口を知りたいと、多くの人たちが応募したという経緯があった。ボランティアの中でも色がちがうのだが、カウンセリング入門コースについても、自己のカウンセリング、自分を見つめるという意味でやられる方が大変多い。その中でもサークルが出来て、地域貢献のカウンセリングを勉強して、地域社会にも出ている方たちもいるが、実際には個人の動機でカウンセリング入門コースに来られた方が多い。

募集状況ということであれば、概ね定員に対して応募をされていると思う。農業体験コースは、農業への意欲が大変強く、農地も川口市内の農家に場所を提供していただいて、活動している。しかし、開発とのからみで長くお借りすることはできそうもないということで、倍率の高い魅力あるコースである。どのコースももっと魅力あるコースにしていく必要があるが、多くの市民の方に参加をいただいていると思っている。

#### ○委員長

なかなか難しい問題だ。地域貢献するために盛人大学に入るのかということ、それは違うと思う。盛人大学で学んだ結果として、自分が学んだものを地域貢献に活かせるか、町会などに携われるかということ。

#### ○委員

盛人大学は地域に踏み出すきっかけ。今までサラリーマンやっていた人たちは、行政は何をやっているのかほとんど知らない。そういう人たちのきっかけの場としての広がりや行政は見つけないだろうと思う。そこで現状のままではなく、変えていきたいということだと思

う。

○委員長

委員の言うとおりに、学旨に参加したくなるような文言が入れば良いと思う。

○委員

実行委員長は、学旨を変えることについてどう思うか。

○関係者

先ほどの委員の意見にもあったが、学旨の人、地域、社会がともに成長するということだと、個人の視点が強くなってしまふ。地域貢献のきっかけに、社会貢献をしたいとなっただけなのが最終的な思いなので、学旨にその文言が入ることによって意味合いが変わり、より社会貢献活動に興味を持たれるようになればと思う。

○委員

私も盛人大学当事者なので口出ししにくいですが、皆さんの意見も聞いて、実行委員長の意見も聞くと、やはり趣旨は尊重して、さらに分かりやすく明確にと。実は、私も学旨を読んでちょっとわかりにくいと感じるところがある。それを踏まえながら、変更というよりも手直し。その意味で、ここで協議されるのと同時に盛人大学運営委員会、また実行委員会にも話しをして、学旨を見直すということが必要ではと私は思う。

○委員長

他に意見はないか。

(「意見なし」との声あり)

○委員長

ないようであれば、学旨について改めてそれぞれの意見を伺うということで、提出をもらい、次回、検討するというところでよいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

異議なしということで、意見交換を終了し、盛人大学実行委員会委員長退出のため暫時休

憩とする。

(暫時休憩)

○委員長

再開する。

ここで、委員の皆さんにお諮りする。前回の会議では、盛人事業の概要、第5次川口市総合計画や行政評価外部評価結果などの説明があり、本日の会議では市民大学との比較の説明、さらに関係者との意見交換、質疑応答を行った。市長からの諮問事項である盛人大学学旨の改正を検討する一定の資料は出揃ったものとする。そこで、盛人大学が協働する担い手を育成する場であることを表す学旨について、現在の学旨を含め検討したいと思う。

そこで休憩前に申し上げたが、今この場で委員から案を出していただくことは難しいと考える。そこで、事務局から後日、調査票を送り、案を提出いただき、それを基に次回の委員会で議論したいと考えるがどうか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

異議がないので、そのようにする。なお、提出いただく案は、数多く提案されると絞り込みが困難になると想定されるため、一人多くとも2案までとする。では、事務局は、調査票を作成し、また、十分検討できるよう、回答までの期限は長めに取って送付するように。

○事務局

調査票作成し委員に送付する。各委員が案を作成しやすいよう会議録を調製してから送付することとする。

## (2) 報告事項について

### ア 町会・自治会との協働事業について

○委員長

(2) 報告事項のア 町会・自治会との協働事業について、事務局に説明を求める。



○事務局

資料2は、市と町会・自治会との協働事業について調査の依頼があったことから、各課に調査し、取りまとめたものである。それぞれ、事業の名称、協働先の町会・自治会の名称、事業の内容を記載し、市の行政組織順に並べている。昨年及び本年度で16事業となっている。

○委員長

この件について、何か意見はあるか。

○委員

予算がついてるものは何か。

○事務局

全ての事業について、何らかの予算が付いていると思われる。

○委員長

他に意見はないか。

(「意見なし」との声あり)

(3) その他

○委員長

その他について事務局から何かあるか。

○事務局

次回委員会であるが、調査票を集計してからとなるため、開催時期は委員長と相談し決定次第すみやかに報告する。

○委員長

委員から何かあるか。

○委員

諮問とは内容が違うが、意見を述べる。協働推進委員会は協働推進条例に基づいているも

のである。行政にも協働を受け入れる環境整備が必要である。条例では、市は職員の協働への理解を促すこととなっている。先日、まちはみんなでつくるものフォーラムが行われた。以前は職員も強制的に参加があり、協働推進委員会もコーディネーターなどで参加した。今回は行政のみで行った。いかがなものかと思う。登録団体と一緒に行くべきものと思うので次回開催するときは協働するようにしてほしい。また、職員の研修の場でもあるから参加できるよう整えてほしい。

○事務局

意見として承る。また、職員には告知もしている。

○委員長

他にないようなので、これで議長の任を降り、進行を事務局に戻す。

### 3 閉会（11時30分）

○事務局

これをもって、第4回委員会を終了する。

会議の内容については、以上のとおりです。

平成29年2月22日

川口市協働推進委員会委員長

(邊田委員長署名)

川口市協働推進委員会委員

(清水委員署名)